



### コーユーレンティア

関西支店  
オフィスソリューション営業グループ  
課長代理

てらむら やすたか

## 寺村 定隆さん

51歳。大学卒業後、新卒として1998年4月コーユーレンティア(旧広友リース)に入社。法人向け営業として関西支店に勤務している。実家は浄土宗の朝日寺。7年前から27代目の住職になった。

### お客様の要望は難しくても すぐには断らない

寺村さんは現在、法人顧客向けにオフィス什器レンタルや買取・廃棄、移転・移設、オフィスデザインや内装工事などの業務を担当。手が足りない時には、支店に併設する中古オフィス家具ショップ「リスタ大阪ATC店」で接客もしている。

そんな寺村さんが業務を行う上で大切にしていることは、「お客様の要望が難しくても、すぐには断らない」ことだ。色々手尽くして、できる限り要望に応えるようにする。「逆の立場になった時、親身に相談に乗ってもらえたら嬉しいですね。お客様に頼りにしていただくなら、最善を尽くして応えたいと思っています」と寺村さん。

以前、オフィスのデスクの入れ替えの相談で「至急、同じ型のデスクをリユース品で50台ほどほしい」という依頼があった。リユース品でその数を揃えるのは、同社の在庫だけでは足りなかった。そ

ここで、同業のパートナー企業にも声をかけ、なんとか台数を確保。新品に比べて予算も抑えることができ、とても喜ばれた。

寺村さんは、茨木市にある浄土宗の「朝日寺(ちようにちじ)」の住職でもある。住職の時の名前は本名の「定隆(やすたか)」を「じようりゅう」と音読みする。1100年以上もの歴史を持つ寺院で、現在の場所に移転したのは400年ほど前。寺村さんは27代目の住職に当たる。

「地方のお寺なので、平日は忙しくないんですよ。法事があるのは主に週末で、平均して月に2、3回ほど。会社の業務と重ならないように調整をしています。急遽葬儀が入った時は有休をいっていただきます。会社のお盆休みの時期が一番忙しいですね」

住職だった父親からは継ぐことを強制されたことはなかったが、小さい頃から「なんとなく自分

## お寺の住職とレンタル会社営業職の二刀流

### 仏教の精神で、常に前向きに考える

オフィス家具や什器のレンタルを行うコーユーレンティア(東京都港区)の寺村定隆さんは、会社員と浄土宗の住職の「二刀流」で働いている。それぞれの仕事が互いに良い影響を与えているという寺村さんの働き方を紹介する。



が継ぐと思っていた」と寺村さん。大学時代の夏休みは、毎年、東京の増上寺や京都の知恩院などで3週間ほど修行にも行った。

父親が住職の間は会社員を続けながら寺院の仕事も手伝い、7年前に正式に住職となった。

### 会社員の経験が 檀家との会話で活きる

寺村さんは会社員としての仕事も、お寺の仕事も「どちらも本業」と話す。両方やっていてよかったと思うことも多い。「お寺の仕事だけでは、世界が狭まってしまいます。普通に会社員として働いている経験が、お寺の仕事でも活かしていると思います。檀家さんと話をする時は、同じ勤め人としての気持ちがかかりますし、話題も広がりますね」

反対に僧侶としての経験も、同社での仕事に活かされている。何かトラブルがあっても、感情に流されず、平常心を保つ

「いつも協力し合う関係を築く」

一緒に働く同僚たちは、寺村さんが僧侶であることを知っていて、急に休む時も理解してくれている。「私の場合だけではなく、誰かが病欠する時もフォローし合います。人間関係も良好で、働きやすい職場です。弊社は産休明けで復帰する女性が多く、それは時短制度などがあり、働きやすい環境が整っているからだと思います」と話す。

人間関係を円滑にするために、寺村さんが心がけているのは「いつでも協力し合う関係性」だ。「自分の意見だけを伝えるのではなく、相手の意見もよく聞くこと。仕事は一人ではできません。社内はもちろん、パートナー企業さんとの関係も大切にしたいと思っています」



寺村さんが住職を務める、佛光山無量院朝日寺

寺の釣鐘堂。毎年大晦日には近隣の鐘をたたくに訪れる